

科目名	建築構造・設備実習 1							年度	2025
英語科目名	Structural & HVAC design Practice 1							学期	前期
学科・学年	建築学科 2年次	必／選	選	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	小倉 直幸	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築構造設計		
【科目の目的】 建築の構造設計について関心を持つ。 建築物の軸組模型作成、構造図作図により、構造力学への理解を深める。									
【科目の概要】 構造設計という職能に触れる。実案件を題材とし、実務に触れる。 構造模型をもとに自ら図面を製作する過程で、構造材のサイズ等を読み解き学ぶ。 構造材のサイズの決定の仕方を学ぶ。									
【到達目標】 A. 建築物全体の構造を理解しながら、軸組模型を制作することができる B. 軸組模型を参照しながら、構造図を製図することができる C. 木造在来軸組工法を理解しながら、壁量計算をすることができる									
【授業の注意点】 ・毎回資料などを必ず持参し、このシラバスも持参のこと ・製図道具、模型制作用の道具などを持参すること ・軸組模型と構造図を完成提出することと、授業時限数の3/4以上の出席を単位認定の条件とする									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A	構造の仕組みを深く理解しながら、軸組模型を丁寧に制作することができる		指定された形態の軸組模型を丁寧に制作することができる			指定された形態の軸組模型を完成させることができない			
到達目標 B	構造の仕組みを深く理解しながら、構造図を製図することができる		軸組模型どおりに、構造図を製図することができる			軸組模型どおりに、構造図を完成させることができない			
到達目標 C	木造在来軸組工法を深く理解しながら、壁量計算をすることができる		指定された計算方法どおりに、壁量計算をすることができる			指定された計算方法どおりに、壁量計算をすることができない			
【教科書】 毎回シラバスと関係する図面等の資料を使用する									
【参考資料】 参考書・参考資料等は、授業中に指示する									
【成績の評価方法・評価基準】 毎回の授業への取り組み姿勢、出席状況、成果物、特別講義への積極的発言などを総合的に判断し評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

